

国立大学法人小樽商科大学中期目標

（前文）大学の基本的な目標

小樽商科大学は、建学以来築いてきた自由な学風と実学重視の精神を重視するとともに、複雑高度化した社会における問題解決への貢献と人類普遍の真理探究を使命としてきた。この使命の下、本学は「商学」を実践的・応用的総合社会科学として捉え、言語・人文・社会・自然科学という多様な分野の研究者が1つの学部にも所属し、教職員と学生の間で自由闊達な交流が行われる「商科系単科大学」としての強み・特色を最大限に発揮し、社会の各分野において指導的役割を果たすことのできる品格ある人材の育成と高度な研究に取り組んできた。

平成25年8月、本学は「教育」「研究」「社会貢献」の全てにおいて、北海道経済の発展を担うために、『No.1 グローカル大学宣言』を行い、以下の方針を掲げた。

- ①明確な人材像を掲げた教育課程の再編
- ②即戦力となる「タフな人材」を育成（実学・語学教育の強化）
- ③北海道との共創を目指し研究・社会貢献を展開

この宣言に基づき、本学が目指す豊かな教養と外国語能力を基礎とした深い専門知識を有し、グローバルな視点から地域経済の発展に貢献できる人材（グローバル人材）の育成を目指した新たな教育プログラム「グローバル・マネジメント副専攻プログラム」を平成27年度に導入するとともに、北海道経済の活性化を目的としてグローバル戦略推進センターを設置した。

第3期中期目標・中期計画期間は、グローバル時代における地域（北海道）マネジメント拠点としての社会的役割を果たすために、

- ・教育面では、本学が目指すグローバル人材の育成を行うために、アクティブラーニングの深化・充実を図るとともに、グローバル・マネジメントプログラムを発展させた新たな教育課程の構築を行う。
- ・研究面では、産業界・自治体等と連携し、地域課題研究を全学的に推進することにより、北海道経済におけるグローバルな視点を持ったシンクタンク機能を果たす。
- ・社会連携面では、北海道経済の活性化に向けて、産業界、自治体等公的機関、道内他大学とのネットワークにおける文理融合型ビジネス開発プラットフォームを構築し中核機能を果たすと同時に、産学官連携・他大学連携に基づく地域経済活性化に資する地域人材育成を、学長のリーダーシップの下で展開する。

◆ 中期目標の期間及び教育研究組織

1 中期目標の期間

中期目標の期間は、平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。

2 教育研究組織

この中期目標を達成するために、別表1に記載する学部及び研究科等を置く。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標

- ① 学部教育においては、豊かな教養と外国語能力を基礎とした深い専門知識を有し、グローバルな視点から地域経済の発展に貢献できる人材（グローバル人材）を育成する。【中期目標1】
- ② 人文・社会系大学及び北海道におけるアクティブラーニングの先導的役割を果たす。【中期目標2】
- ③ 大学院（現代商学専攻）教育においては、現代社会の諸分野において貢献し得る、高度な専門的知識・研究能力を有する人材の育成を行う。【中期目標3】
- ④ 経営系専門職大学院（アントレプレナーシップ専攻）教育においては、経済活性化を最優先課題とする北海道において、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、新規事業開発や企業・自治体等の組織改革など広く「革新」を実行しうるビジネス・リーダー及びビジネス・イノベーターを育成する。【中期目標4】

（2）教育の実施体制等に関する目標

- ① 本学の教育目標を実現する全学的な教学マネジメント体制を整備する。【中期目標5】
- ② 学生の主体的学びを促すアクティブラーニングを推進するために、施設・設備の教育環境を充実させる。【中期目標6】

（3）学生への支援に関する目標

- ① グローカル人材の育成に必要な学生への学習支援及び生活支援等を充実させる。【中期目標7】

（4）入学者選抜に関する目標

- ① アドミッションポリシーに基づき、大学入学希望者の多様な能力を多元的に評価する個別選抜を実施する。【中期目標8】

2 研究に関する目標

（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標

- ① 「商学」を実践的・応用的総合社会科学として認識し、社会が提起する諸問題に総合的・学際的にアプローチし解決策を提示する実学的研究を推進するとともに、総合的・学際的なアプローチを可能にする諸分野の理論研究及び基礎研究を行う。【中期目標9】

（2）研究実施体制等に関する目標

- ① 「商科系単科大学」の特色を生かした研究を推進するため、全学的な研究マネジメント体制を整備する。【中期目標10】

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

- ① 北海道の地域再生・活性化を目指し、①本学が100年にわたりネットワークを築いてきた産業界、②包括連携協定を締結する北海道、北海道財務局、小樽市などの公的機関、③教育研究面でさまざま

な連携事業を実施する北海道内他大学等と連携することにより、全学的な教育・研究を推進するとともに、その成果の還元を通して、地域の課題解決を担う人材を育成する。【中期目標11】

4 その他の目標

(1) グローバル化に関する目標

- ① 本学が目指すグローバル人材の育成に資する教育研究の国際化を図る。【中期目標 12】

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

- ① 学長のリーダーシップの下、小規模大学の強みを活かし、教職員が一丸となった戦略的な組織運営を行う。【中期目標 13】

- ② 多様な価値観・経験に基づく大学運営を推進するため、男女共同参画を推進する。【中期目標 14】

2 教育研究組織の見直しに関する目標

- ① 本学のミッションを全学的に推進するために、教育研究組織の見直し・再編成を行う。【中期目標 15】

3 事務等の効率化・合理化に関する目標

- ① 本学の機能強化に資する事務組織体制を構築する。【中期目標 16】

III 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

- ① 教育・研究基盤の整備充実を図るため、外部研究資金及びその他の自己収入の拡充に取り組む。【中期目標 17】

2 経費の抑制に関する目標

- ① 本学の財政健全化のため、さらなる経費の抑制及び削減に向けた取組を行う。【中期目標18】

3 資産の運用管理の改善に関する目標

- ① 資産の適正な運用管理を図り、有効利用及びスリム化について組織的な取組を行う。【中期目標 19】

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

- ① 自己点検・評価を計画的に行うとともに、学外者による外部評価を実施し、評価結果を大学運営の改善に結び付ける。【中期目標 20】

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

- ① 大学の説明責任を果たし、社会のニーズに適切に対応した情報公開・情報発信を行う。【中期目標 21】

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

- ① キャンパスマスタープランに基づき、教職員や学生、一般市民を含む利用者への利便性・快適性の向上を目指すとともに、本学が目指す教育・研究の推進に資する施設マネジメントを行う。【中期目標 22】

2 安全管理に関する目標

- ① さまざまな危機事象に対するリスクマネジメントを徹底し、学生・教職員の安全を維持する。【中期目標 23】

3 法令遵守に関する目標

- ① 法令及び本学諸規程に基づく適正な法人運営を行う。【中期目標 24】

別表 1（学部、研究科等）

学 部	商学部
研究科	商学研究科